

部門名	舗装工事
案件名	松江市営補助競技場人工芝改修工事
工期（始）	令和3年10月7日
工期（終）	令和4年3月18日
場所	上乃木十丁目
事業者名	松江土建(株)／(株)佐々木建設
代表者名	代表取締役社長 平塚 智朗／代表取締役 伊達 憲良
技術者役職	監理技術者／主任技術者
技術者名	千原 三幸／ 戸谷 吉伸
工事概要	ロングパイル人工芝設置 A=10,010 m ² 既設人工芝撤去 A=8,030 m ²
表彰理由	本工事は、経年劣化したサッカー場人工芝を更新したものであり、既設人工芝の再利用や、JFA 認定ピッチとして厳格な検定に合格する必要があったが、繊細かつ緻密な施工管理により検定合格し竣工した。また、コンディションを長く保つ工夫がなされ、出来栄も優れており島根県サッカー協会から感謝状を受けられるなど、全体として優良な工事であった。

本工事は補助競技場の人工芝を更新するための工事で、2社で構成された特別共同企業体による施工である。

本工事の表彰技術者にそれぞれの感想を話していただきました。松江土建株式会社、監理技術者（当時）千原三幸氏は、「この度は工事優良表彰を頂き、大変光栄に思います。」、株式会社佐々木建設、主任技術者（当時）戸谷吉伸氏は、「とてもうれしく思っています。」と話す。



本工事で心掛けたことは、「本工事の目的である JFA ロングパイル人工芝公認ピッチとなる為、JFA が実施するフィールドテストに確実に合格することです。そのために JFA のフィールドテスト項目を工事の品質管理に取り込み、また独自の出来形管理項目の追加や試験・測定頻度を増数し納得できる管理を行いました。」（千原氏）、「人工芝の充填材（珪砂）は、雨・雪により濡れると使用できなくなる特徴をもっているが、今回は冬季施工であったため搬入後の養生方法及び施工時の天候などには細心の注意をはらった。上記の理由で雨天時では作業不可であるため雨天以外にできるだけ作業を効率よく実施しなければ工期に間に合いません。そのため、好天日には施設内に設置してあるナイター照明を利用し閉園時間まで作業を行った。このことにより工程管理的にも余裕ができたが作業環境的には苦労した。」（戸谷氏）、印象に残ったことは、「下地フィールド管理で既存基面の凸凹が規格値を上回った為、発

注者と慎重に協議、工法の検討を行い補修を行った事です。下地の品質が悪ければ、上層の品質が悪くなるのは必然で改めて下層品質の重要性を認識しました。」（千原氏）と語る。苦労したことについては、「経験の無い工種で、私自身にまったくノウハウが無かったことです。文献を読んだり、工場を視察したり勉強もしましたが、専門協力会社の技術者や職人さんの経験と知恵に大変助けてもらいました。」

（千原氏）と話す。注目してほしいところは、「産業廃棄物削減のため、撤去した既存人工芝の再利用計画を立案し実施したことです。撤去された人工芝はリサイクルが出来ないので産業廃棄物として最終処分されますが、当工事では、撤去した人工芝をスタンド前やフットサルコート横の空きスペース等に敷いてウォーミングアップスペースとしての活用や、外周の防草対策に再利用しました。また、残った人工芝は発注者の尽力で希望する学校で持ち帰り再利用して頂く対応で産業廃棄物をほぼゼロとしました。撤去した人工芝の再敷設はあまり前例がなく施工方法や割付に創意工夫を行いました。」（千原氏）と語る。



仕事における今後の目標については、「いくら経験を積んでも日々勉強と思います。今後もスキルアップできるよう努力します。」（千原氏）、「地域住民に親しまれる会社になるように自分自身の向上」（戸谷氏）と話す。

建設業のやりがいについては、「現場での苦労は多いと思いますが、それを乗り越え完成させたときの達成感にやりがいを感じます。」（千原氏）、「[工事完成後の達成感]」（戸谷氏）。これから建設業界を目指す人たちには「いつか自分の作ったものが後世まで残る。これは誇れる仕事になると思います。」（千原氏）、「建設業は自分が携わった仕事が形として残るやりがいのある仕事です。ぜひ一緒に仕事をしましょう。」（戸谷氏）とエールを送った。最後に、それぞれが所属する会社について紹介してもらった。松江土建株式会社は、「働き甲斐を実感できる会社です。バックアップ体制も整い安心して働けます。」、株式会社佐々木建設は、「どんな工事でも会社全体で協力し合い工事を完成させる。」



松江土建 株式会社
（写真右）代表取締役社長 平塚氏
（写真左）監理技術者 千原氏



株式会社 佐々木建設
（写真右）代表取締役 伊達氏
（写真左）主任技術者 戸谷氏